

(第3面)

特集

6月3日は
「測量の日」

ブリッジ式の研修で
ステップアップ
近年、測量分野ではUAVの
急速な普及が業務の在り方に大
きな変化をもたらしている。こ

国土地理院の測量行政懇談会が測量技術者の確保・育成に向けた取り組みの加速化を求める報告書をまとめてから5年間がたった。当時よりもUAVをはじめとした新技術がさらに浸透し、測量成果を生かした地理空間情報サービスがますます拡大する中で、測量技術者に求められる能力は一層、多様化してきている。こうした現状に対し、日本測量協会(日測協)、清水英範会長は測量の専門技術を深める講習とともに、UAVの操作・活用をはじめとした関連技術の講習を提供し、社会・経済の要請に応えられる技術者の育成を支援している。



は、人材育成への関心が高い
日測協のUAVセミナーで

測量成果の活用まで
を視野に

では、実際に現場で働く測量技術者は、具体的にどのようなキャリアの道筋を描いていっているのか。参考になるのが、日本測量協会が20年度に測量・地理空間情報技術者を対象としたセミナーで行ったアンケート

だ。今後に取得したい資格について質問したところ、「すぐ」と「将来のどちらの場合も」「技術士(建設部)」とする回答が全体の4割近くを占め、最も多かった。ここから推察されるのは、単独で測量業務のみを投注しているのではなく、その成果を生かすコ

進化する測量

不可欠な「専門性」と「広い視野」

うした現状を踏まえ、日測協は2016年度から業務者向けのUAVセミナーを開始。当初は機体・カメラや関連する申請手続きへの関心が高かつたが、機器の普及に伴ってUAVを活用できる人材の育成に关心が移ってきているという。そこで日測協が推進している

空中写真測量や、得たデータを

してUAVの操作だけでなく、

空中写真測量や、得たデータを

してU